

KChecker説明書

ver 1.0.0.0

目次

1 はじめに.....	2
2 簡単な使い方.....	2
3 漢字種別.....	3
4 ウィンドウ.....	6
4.1 ウィンドウ内の操作.....	6
4.2 ステータス表示.....	6
5 機能説明.....	7
5.1 ファイル.....	7
5.1.1 新規作成.....	7
5.1.2 開く.....	7
5.1.3 上書き保存、保存.....	7
5.1.4 漢字分類の表示.....	7
5.1.4.1 級別分類.....	7
5.1.4.2 その他分類.....	8
5.1.5 終了.....	8
5.2 編集.....	8
5.2.1 検索と置換.....	8
5.2.2 前を検索、次を検索.....	9
5.2.3 標準のフォントで再表示.....	9
5.3 表示.....	10
5.3.1 ツールバー、チェック条件、ステータスバー.....	10
5.3.2 チェックされた文字.....	10
5.4 チェック.....	10
5.4.1 チェック実行.....	10
5.4.2 条件設定.....	10
5.4.2.1 簡単設定.....	10
5.4.2.2 詳細設定.....	11
5.5 ツール.....	13
5.5.1 オプション.....	13
5.6 ヘルプ.....	15
5.6.1 ヘルプの表示.....	15
5.6.2 バージョン情報.....	15

1 はじめに

KCheckerは、漢字が漢字検定の何級に配当されているかを調べることができるソフトです。10級～1級まで対応しています。

また、小学校何年で学習するかや、常用漢字、新常用漢字、人名用漢字、環境依存文字であるかどうかを調べることができます。

文章中で条件に当てはまる漢字全てを色を変えて表示したり、個々の漢字の情報（級や人名用漢字かどうかなど）を表示したりすることができます。

2 簡単な使い方

文章に使われている漢字をチェックする

1. ウィンドウ内に、チェックしたい文章を入力します。
2. 「条件設定」ボタンを押し、チェック条件を設定します。

（例1）「簡単設定」で「小学3年までに習う漢字」とした場合、小学3年までに習わない漢字がチェックされます。

（例2）「詳細設定」で「2級を色付きで表示する」とした場合、2級の漢字がチェックされます。

3. 「チェック」ボタンを押してチェックを行います。チェックされた漢字が赤で表示されます。また、別ウィンドウにも表示されます。

個々の漢字の情報を表示する

1. ウィンドウ内に、チェックしたい漢字を入力します。
2. 漢字の前にカーソルを持っていくと、その漢字の情報がステータスバーに表示されます。

3 漢字種別

KChckerでは漢字を、漢字検定の級、または特定の種別でチェックすることができます。

KChckerでチェックすることのできる種別には、以下のものがあります。

10～1級

漢字検定の級です。

10～5級は、それぞれ小学校1～6年で学習する漢字に、4～2級は中学校で学習する漢字に相当します。

準1級・1級については、「漢字必携一級」に示された標準字体・許容字体のうちコンピュータで文字として扱える(注1)もの、あるいは書籍には示されていないが許容字体と考えて差し支えないと考えられる漢字のうちJIS第1～第2水準のものを、チェック対象とします。

1級については、常用漢字と同じ形の漢字が4文字存在します（予、弁、欠、芸。KChckerでは常用漢字として扱います）。また、コンピュータで文字として扱えない（注1）漢字が3文字存在します（[金逆] [魚尔] [魚恵]。チェック対象外となります）。

（注1）漢字の中には、JIS・UNICODE規格外のものも存在します。これらの漢字はコンピュータでは文字として扱うことができませんので、KChckerではチェックの対象外となります（チェックのしようがありません！）

漢検対象外

漢字検定の10～1級配当漢字に含まれない漢字です。KChckerでは、JIS第1～2水準のみチェック対象とし、環境依存文字（後述）についてはチェックの対象外とします。

常用漢字

一般的な漢字。10～2級に配当されています。

新常用漢字

現在、常用漢字のあり方が見直されており、2010年に新常用漢字表の制定が予定されています。

この新常用漢字表に含まれる漢字、あるいは現在の常用漢字に含まれず新たに新常用漢字表に追加される漢字を、新常用漢字と呼んでいます。後者は「常用漢字の追加候補」と表現する場合があります。逆に、新常用漢字表では外される漢字（削除候補）もあります。

なお、KChecker ver1.0.0.0の新常用漢字は、2009年10月現在のものです。今後変更される場合もあります。

人名用漢字

日本で子の名前として使える漢字のうち、常用漢字を除いたものを指します。戸籍法により定められています。

人名用に使える文字は、以下のとおりです。

- 人名用漢字
- 常用漢字
- ひらがな、カタカナ（ゐゑきゑを含む）
- 長音記号、繰り返し記号
- ー々ゝゞ

KCheckerで人名用漢字のチェックを行う場合、人名用に使える文字がチェック対象となります（ただし、半角カタカナは対象外です）。また、「人名用漢字

以外」とした場合、漢字以外の人名用に使えない文字（英数字など）もチェック対象となります。

国字

日本国内で作られた漢字です。

JIS第1～2水準だけでなく環境依存文字（後述）にも多数の国字が存在しますが、KCheckerでは環境依存文字の国字については準1級・1級配当の漢字のみチェックの対象とします。

JIS第1～第2水準

JIS規格の第1水準／JIS第2水準です。

環境依存文字

JIS第1～2水準に定義されていない文字で、これらはハードウェアやフォント、アプリケーションによっては正しく表示されず、携帯電話で使うこともできません。

ちなみにWindows Vistaで漢字変換を行うと、環境依存文字であればそのことが表示されるようになっています。

KCheckerでは、以下のものに限り環境依存文字をチェックします。

- 準1級・1級配当の漢字（標準字体および許容字体）
- 人名用漢字
- 半角カタカナ
- 一部の記号

したがって、漢字であっても漢検配当外で人名用漢字でもない環境依存文字は、

チェック対象外となります。

4 ウィンドウ

4.1 ウィンドウ内の操作

ウィンドウ内では、メモ帳と同じように、テキストの入力が行えます。貼り付け(Ctrl+V)、コピー(Ctrl+C)、切り取り(Ctrl+X)、元に戻す(Ctrl+Z)も使用可能です。また、右クリックメニューから、チェックの実行、貼り付け、コピー、切り取りが可能です。

ウィンドウ内にファイルをドラッグ&ドロップして、そのファイルを開くことができます。このときの文字コードはShift-JISですが、オプションでUTF-8に変更可能です。

以下のファンクションキーが利用できます。

- F3 次を検索
- Shift+F3 前を検索
- F4 チェック条件の設定
- F5 チェック実行
- F7 「チェックされた文字」ウィンドウの表示切替

4.2 ステータス表示

カーソル位置（直後）の文字について、そのステータス（級および分類）がステータスバーに表示されます。

ステータスを表示するのは基本的に漢字のみですが、環境依存文字のみ漢字以外でもステータスを表示します。

5 機能説明

5.1 ファイル

5.1.1 新規作成

テキストをクリアします。

5.1.2 開く

テキストファイルの内容をウィンドウに表示します。

文字コードはシフトJISですが、オプションでUTF-8に変更できます。

5.1.3 上書き保存、保存

テキストをファイルに保存します。保存されるのは文字だけで、チェックにより付いた色は保存されません。

文字コードはシフトJISですが、オプションでUTF-8に変更できます。

5.1.4 漢字分類の表示

漢字分類をウィンドウに表示します。

現在ウィンドウに表示されているテキストは消去されます（編集済みの場合、保存確認を行います）。

5.1.4.1 級別分類

常用漢字（10級～2級）、表外漢字（準1級・1級・漢検対象外）で漢字を分類したものを表示します。

準1級・1級について

「標準字体またはそれに準ずるもの」とは、以下の漢字です。

- 「漢字必携一級」において標準字体とされている漢字
- 標準字体が扱うことのできない漢字の場合、許容字体で最も形の近いもの

1級について

△は、常用漢字と文字コードとしては同じ漢字（予、弁、欠、芸）。常用漢字として扱います。

×は、JISにもUNICODEにも無いため扱うことのできない漢字。[金逆][魚尔][魚恵]の3文字です（ちなみに、すべて国字です）。扱えないのでチェック対象外となります。

（ゝに捷の右側）は、JISにはなくUNICODEにはあるため、正しく表示されずに□に化ける場合が多いです。KCheckerではチェック対象となります。

5.1.4.2 その他分類

新常用漢字、人名用漢字、国字、環境依存文字（非漢字のみ）で漢字を分類したものを表示します。

5.1.5 終了

アプリケーションを終了します。

5.2 編集

5.2.1 検索と置換

検索・置換を行います。

KCheckerの検索には、通常のテキスト検索と、チェックされた文字の検索の2種類があります。

テキスト検索

1. 「テキストを検索」を選択し、下のボックスに検索するテキストを入力します。
2. 「検索」ボタンで検索します。

チェックされた文字の検索

1. 「チェックされた文字の検索」を選択します。
2. 「検索」ボタンで検索します。

置換

1. 「テキストを検索」を選択し、下のボックスに検索するテキストを入力します。
2. 「テキストを置換」を選択し、下のボックスに置換後のテキストを入力します。
3. 「置換」ボタンで1つ置換します。また、「全て置換」ボタンで全て置換します。

* 「上へ検索」をチェックすると上方向へ検索・置換します。

* チェックされた文字の置換も可能です。

5.2.2 前を検索、次を検索

カーソル位置より上方向／下方向に検索します。

5.2.3 標準のフォントで再表示

テキスト全部を、オプションで設定された、標準のフォント、サイズで再表示します。

Word(R)のテキストを貼り付けたときなどに文字が重なってしまうことがあるの

で、そのような場合に有効です。

5.3 表示

5.3.1 ツールバー、チェック条件、ステータスバー

ツールバー、チェック条件、ステータスバーの表示／非表示を切り替えます。

5.3.2 チェックされた文字

チェックされた文字を表示するウィンドウの表示／非表示を切り替えます。

5.4 チェック

5.4.1 チェック実行

指定された条件でチェックを行います。

5.4.2 条件設定

チェック条件の設定を行います。簡単設定と詳細設定の2つがあります。

5.4.2.1 簡単設定

簡単設定では、あらかじめ用意された条件から1つ選びます。OKならそのまま、NGである文字を赤で表示します（条件「全ての漢字」を除く）。

小学○年までに習う漢字

小学○年までに習わない漢字が赤で表示されます。

（小学○年までに習う漢字はOKなのでそのまま、それ以外はNGなので赤で表示する、ということです）

常用漢字(中学校までに習う漢字)

常用漢字でない漢字が赤で表示されます。

新常用漢字

新常用漢字でない漢字が赤で表示されます。

人名用漢字

人名（子の名前）として使えない文字が赤で表示されます。英数字なども人名として使えないので赤になります。

環境依存文字

環境依存文字が赤で表示されます（環境依存文字がNG）。

全ての漢字

KCheckerでチェック対象となっている全ての漢字を、級別にハイライト表示します。

5.4.2.2 詳細設定

詳細設定では、対象、範囲、チェックされた漢字の表示方法をそれぞれ指定できます。

[対象]

チェックする級や分類です。詳しくは、3.漢字分類を参照してください。

簡単設定とは違い、例えば「10級（小学1年で習う漢字）を色付きで表示する」とするとそのまま10級（小学1年で習う漢字）を色付きで表示されます。

全ての漢字

KCheckerでチェック対象となっている全ての漢字をチェック対象とします。

カスタム文字セット

ファイルを読み込み、そのファイルに含まれている文字をチェック対象とします。

※非漢字については、範囲「を」の場合はチェック対象となり、「以外を」の場合はチェックされません。

[範囲]

を

「対象」がそのままチェックされます。

(例) 「対象」が「1級」…1級をチェックする

以外を

「対象」以外がチェックされます。

(例) 「対象」が「人名用漢字」…人名として使えない文字をチェックする

より上を

「対象」より上がチェックされます。

(例1) 「対象」が「3級」…2～1級と漢検対象外をチェック

(例2) 「対象」が「小学校で習う漢字」…中学校で習う漢字以上をチェック

以下を

「対象」以下がチェックされます。

(例1) 「対象」が「3級」…3～10級をチェック

(例2) 「対象」が「中学校で習う漢字」…小・中学校で習う漢字をチェック

[表示]

色付きで表示する

チェックされた文字を赤で表示します。

ハイライト表示する

チェックされた文字の背景を水色で表示します。

級別にハイライト表示する

チェックされた文字の背景を、級ごとに決められた色で表示します。

※色は、オプションで別の色に変更できます。

5.5 ツール

5.5.1 オプション

チェック条件以外のさまざまな設定を行います。

チェックされた文字の色

詳細設定で「色付きで表示する」とした場合、または簡単設定の場合の、チェックされた文字の色を設定します。

色の付いた四角をクリックすると「色の設定」ダイアログが出るので、ここで色を選びます（以下の項目も同様）。

ハイライト色

詳細設定で「ハイライト表示する」とした場合の、チェックされた文字の背景色を設定します。

級別ハイライト色

詳細設定で「級別にハイライト表示する」とした場合の、チェックされた文字の背景色をそれぞれ設定します。

ちなみにデフォルトでは、10～5級が薄い色、4級以上は濃いめの色となっています。

チェックされた文字をウィンドウ表示

ONにすると、チェック実行後に自動的にチェックされた文字をウィンドウ表示します。

OFFにしても、後からメニューの表示→チェックされた文字で表示することができます。

標準のフォント

「標準のフォントで再表示」実行時のフォントとサイズを設定します。

右の「設定」ボタンをクリックすると「フォント」ダイアログが出るので、ここでフォントとサイズを選びます。

文字コード

ファイルを開く、保存、ドラッグ&ドロップ、およびカスタム文字セット読み込み時の文字コードを、Shift-JISとUTF-8から選択します。

デフォルトに戻す

すべての項目をデフォルト設定に戻します。

5.6 ヘルプ

5.6.1 ヘルプの表示

ヘルプファイル（このファイルです）を開きます。

5.6.2 バージョン情報

バージョン情報ダイアログボックスを表示します。

Copyright © 2009 LSI